

○東京家政学院大学 上村協子教授による「SDGs と家政学 講演会」の様子と生徒の感想



☆講義を受講した生徒から東京家政学院大学の方へのお礼と感想

3年 Y.Hさん

東京家政学院大学 現代生活学部 現代家政学科 上村協子教授

本日はご講演ありがとうございました。

人は誕生してから人生を歩んで必ず最後を迎えます。未成年はまだ子供でだんだん大人になって、歳を取るとまた子供のように戻っていく。このような人生のあり方を円と捉える日本の考えと、人生は一直線と捉える他の国の考え方など、人生という大きな括りを図解で捉えるというのは、今まで人生は一本の長い道と捉えていた私には新鮮に感じました。

生活設計をライフデザイン・生活資源・生活リスク・目標の達成方法の4項目に分けて考えました。「目標は大きく」や「自分はダメだ」などの思い込みを捨てることができず、新しい考えや生活設計が見えてきませんでした。このことは、漢字の「口」に線を2本追加して別の漢字を作るという練習問題でとてもしっくりきました。周りの人達に聞いてみて、「占」や「古」、「白」などのたくさんの漢字が出てきたのに対し、私は「口」の中に二本線を入れる方法しか思いつくことができず、いかに自分がワンパターンであったかを気づくことができました。このように、生活設計にも常識的な自分の今できることだけでなく、できるできない関係なしに自分が挑戦してみたい高い目標を設定して計画立てることも大事だと考えられるようになりたいと思いました。意外にお金を適当に使用してそうなお金持ちの人ほど、生活設計が上手だったりするのは、心が豊かな分いろいろな柔軟な考えを持ち、たくさん実行に移しているのではないかと思います。

私はやってもいないのに、できないと判断したものには手をつけずほったらかしてしまう癖があります。今回の「賢い悪魔は作ってはいけない」という言葉の通り、挑戦すらしてないのに結果を想定して実行した気ではないのではなく、できないかもしれないとても大きな目標でもとりあえずやってみる、目標に向けた行動を起こしてみようと思います。

入試アドバイザー堀田様

ガイダンス、質疑応答ありがとうございました。同じ建物・構造を学ぶことでも、建築の歴史や知識を知る・教わる現代家政学科と実際に建物を作る、設計してみる生活デザイン学科では大きく学ぶ内容が変わるということが理解できてよかったです。資格の種類、取得できる多さ、入試形式について詳しくお話しいただき、とても有意義な時間になりました。講演時間外終了後にも関わらず対応してくださりありがとうございました。

3年 T.Iさん

東京家政学院大学 上村協子様

本日はお忙しい中、ご講話していただきありがとうございました。

持続可能な社会を形成することに関して、SDGsの考えが加速化していることを知りました。元は投資家の働きかけではありますが、ESG（環境・社会・ガバナンス）資源で環境保護活動をするのが重視化されてきていることがわかりました。その中でも日本はSDGsの取り組みや考えが遅れているというのは、日本は生活に不自由していないことが一つの要因ではないかと思いました。私も生きること自体には不自由しておらず、どこか他人事で、将来の持続可能な事を考えると言われてもピンと来ないというのが正直なところでした。

日本の食品ロスが工場・お店で約352万トン、家庭で約291万トンあり、国民の1日1人当たり茶碗一杯分のご飯の量に相当することに驚きました。3010活動のように、食事を残さないような取り組みも有効であると思いました。

自分で人生設計する際は、聞くこと、読むこと、見て聞くこと、やっているのを見ること、話し合うこと、発表することが大切だとわかりました。特に人生設計に必要な能力は、ダメだったときにやり直すことができる能力と知りました。VUCAの時代では特に、人生設計は1直線ではいかず、円となって繰り返していくことがわかりました。日本の学生の自己肯定感は少ないのは、自分の上位互換はたくさんいるから自分は必要ないと最初から諦めの考えを持っている人が多いからだと思いました。最初から諦めることをせず、とにかく行動してみるということを突き通せるようになれば、人生の縁も豊かになるのかなと思います。人生100年時代は色々大変な時代だと思います。生き残れるよう、行動する、声をあげるということに意識を向け、大人に向けて徐々に行動できるようにしていきたいと思いました。

堀田様

本日はお忙しい中、ご説明いただきありがとうございました。

東京家政学院大学に限らず、大学の特徴や特色を調べた上で、その大学の学科でどんな資格が取れるのか、どんな就職先があるのか、という大学進学したその先まで考えなければならないとわかりました。アドミッションポリシーを確認するのはもちろん、ただ高校での活動や頑張りを伝えるだけでは大学には行けないとわかりました。自身の経験が今後どのように生きるのか、どのような考えを持って物事に取り組んでいたのか、自分の考えと意思（意欲）を伝えることが大切だと思いました。情報は私たちにアドバンテージを与えてくれるものなので、オープンキャンパスやHPなどを確認し、情報で不利にならないようにしたいと思いました。どれだけ自分をアピールできるかは、社会に出ても必要な能力だと思うので、社会に出るという覚悟のもと、真剣に自己錬磨に取り組んで行きたいと思いました。





3年 Y.Mさん

この度はお忙しい中、私たち清風高校の3学年にSDGsと家政学の講演をしてくださりありがとうございました。

人の生活や身の回りのことに関する学問である家政学とSDGsとの関わりはとても深いものだと思います。最近になって企業や政府によるSDGsに取り組んでいるという宣伝をよく目にします。大企業の自動車会社や食品会社、大学などでも行われています。私はSDGsや環境や社会に気をつけている企業に投資する「SRI」という言葉を現代社会の授業で学びました。企業は利潤を得るために、環境や社会での問題に目を向けず、商品やサービスの提供をしてしまい公害などの問題が起こったことがありました。工場での排水や排気ガスなどにより多くの被害を及ぼした過去がありました。そういった企業はその時は景気が良いのかもしれませんが、地球や環境、社会へのダメージは甚大だと思います。投資家は、そのような企業には支援をせず、SDGsや環境、地球に優しい企業に投資をしようとしているESG投資はSRIに似ていると思いました。家庭の個人個人で取り組むことも大切ですが、大規模な働きができる企業や政府による取り組みが良いと思います。

共生を感じる体験として、「口」という漢字に2画足してみようという課題で、私は「目」、「旦」が思いつきました。周りとの話し合いで「白」、「囚」、「叶」、「占」があることに気がつきました。1人では思いつかなくとも、自分とは違う考えを持っている人がいるので交流して話合うこと(共生)は大切だと思いました。

日本では、まだ男女の差別は多く見られます。先進国の中でも、高い割合で男女差別があるとされています。女は家庭で料理、洗濯などの家事を行い、男は外で仕事をするという考えや、男尊女卑の考え方がいまだに残っているように感じます。しかし現在では、女性でも多くの方が仕事をしているので、このような古く固い考えは無くしていくべきだと思います。女性の差別は多く取り上げられていますが、それに対して男性側への差別はあまり聞きません。男性への差別がないわけではないと思いますが、知られていないのだと思います。女の人は清楚で可憐である、男の人はズボンを履くべきだなどという偏見が日本にあります。SDGsに取り組むためには、強く根強いている固定観念を無くすべきだと思います。

私たちは現在高校3年生であり、これからのことを考えることは重要なのだと学びました。受験の時必ずしも上手くいくとは限らないため、上手くいかないことを予想し、どのように対処するのかを考えていくことも必要だと感じました。自分の実力を高く見ることは良くないですが、自分が何をしても上手くいかないと決めつけてしまうことはもっと良くないことであるため、これからも謙虚に頑張ろうと思います。また、自分の受験や大学での生活、将来の仕事についても生活設計をしようと思いました。

今日は自分の人生、大学受験に向けての心持ちなどを自分自身でよく考える良い機会になりました。

ありがとうございました。

3年 D.Hさん

拝啓

万緑の候、貴校ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

先日は、貴重なお時間をありがとうございました。私にとって、とても関心のある家政学のことについてよく学ぶことができました。家政学とSDGsについての関わりも深く知ることができ、素敵なお話をしていただいたことを本当に感謝しています。

「持続可能な」という言葉は1987年からあるのにもかかわらず企業がなかなか取り入れてくれなかったところを、持続可能な取り組みをする企業には投資をするという条件をつけた途端にいろいろな企業が一齐にSDGsを掲げ始めたというお話がありましたが、私も急にSDGsというワードをよく聞くようになったのは何故なのだろうと思っていました。企業が多く取り組むようになったのはいいものの、投資というものに惹きつけられて活動しているという事を知ると、やはり嬉しくはない気持ちがあります。今は、どうしたら世間が興味を持って活動してくれるのかなと考えるようになりました。総合的な探究の時間で食品ロスについて調べていたので、年間どれほどの量の食料を無駄にしているのかということは想像できていました。そこで上村先生がおっしゃっていた「世界から輸入している食料を捨ててしまっている」という視点で食品ロスという問題を考えていらしたことが私の中でも心に残る点でした。

桑田ミサオさんのお話では、ひとり6次産業という事をしている人がいるということに驚きましたし、何を始めるにも遅いことはなく、何かの枠に囚われて進む必要はないのだということを強く感じました。

様々な物事をよく理解をするためにも、聞いたり見てみたりすることは大事ですが、実践することを重要視して、計画を立てた上で叶えたい未来をつくりたいと思いました。

今回は貴重な講話を本当にありがとうございました。



敬具